

1 出題の意図

あらゆる知識に有用性や必要性が社会的に求められている中で、好奇心や想像力がますます抑圧されるようになった。そのため、有用性や必要性に縛られない、好奇心や想像力を支える人文学的な発想力もますます重要になってきているように思われる。本設題は人類社会を大きく動かしてきたのは必要性や有用性だけではなく、むしろ「面白さ」こそ、その役割を担ってきたという事実を受験生に意識させ、自らの経験に基づいて「面白さ」の可能性を見出す、人文学的な発想力と想像力を試す意図で出題されたものである。また、大学に入学した後、自らが主体的に学ぶべきものを探求することが求められるため、自ら「面白い」と感じた物事と知的に向き合う能力が求められる。

2 解答例

高校一年生の時から地域での子ども向け絵本読み聞かせイベントを手伝ってきた。企画や運営だけでなく、実際に登壇して子どもたちに向けて読む聞かせる役割も担ったことがある。もちろん、そこには子どもたちの言語能力や想像力を鍛えるという社会的有用性や必要性があるし、ボランティア活動として、推薦入試などに役立つ。

しかし、私とその活動をした理由はそれだけではない。子どもたちが絵本の物語に興奮し、好奇心を掻き立てられ、想像力を刺激されていく様子自体が私にとっ て面白く、見ていて楽しかったのである。例えば、子どもたちは読み聞かせる人の声に敏感に反応する。声に感情を込めれば込めるほど、彼らもまたより強く物語に没入する。逆に淡々と読み上げるだけでは、どんなに良い物語でもつまらないと言われてしまう。つまり、感情こそ物語のリアリティを担うのだ。また、子どもたちは単に物語を受動的に聞くだけでなく、物語の設定に沿って、別の可能性を想像したり、新しい物語を考え出したり、さらにそれを現実にはめようしたりする。つまり、彼らは物語を聞いていると同時に、そこから新しい物語と新しい現実を作ろうとしているのだ。その様子を見ると、人間も歴史の中でこういうふうに物語を通して世界を想像し、その想像をさらに広げていって、最後に世界のあり方をどんどん作り変えてきたかもしれないなど、私の想像力もまた刺激されるのである。